

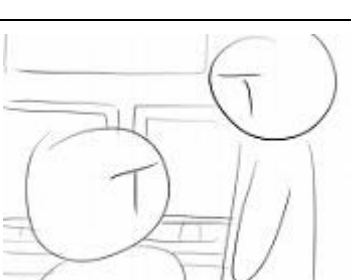
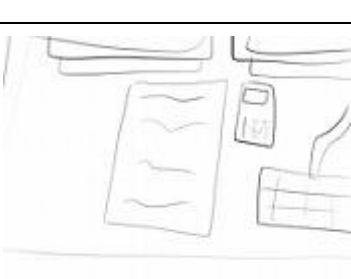




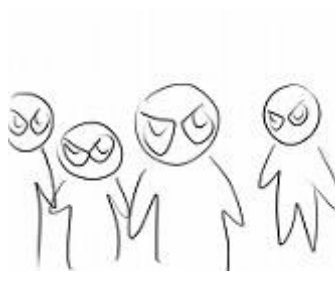


場面：脅征会脅迫

番号	画面	内容・台詞	時間
1		手狭な事務所。 堅太郎が電卓を叩きながら紙にメモしている。 お凜様の笛の音が響いている。 清子「きれい……」	
2		電卓と用紙の接写。 旅館宿泊料金と傷害示談金の請求計算。	
3		堅太郎「あの人数だと、宿泊料金だけでも結構いくぞ」 清子「お金取るつもり？」 堅太郎「当たり前だ。商売なんだから」 清子「子供じゃない」 堅太郎「泊まる以上は子供でも客だ」	
4		清子「緊急なんでしょ？ 無料にしてあげなさいよ」 堅太郎「一度無料で提供すれば、次も次もって無料を要求してくるぞ。それは避けなければ。元手もかかる」 清子「確かにそうね」	
5		堅太郎「それに、いじめっ子もいるんだぞ。うちで保護するからって、今までたけるが受けた暴力が帳消しになるわけじゃない。脅迫罪、傷害罪で刑務所にぶち込まれても文句は言えないんだ。証人はたくさんいる。いじめっ子の両親に誠意を見せてもらわないと」	






場面：脅征会脅迫

番号	画面	内容・台詞	時間
6		清子「神様からも取るの？」 堅太郎「いや、むしろ子供達を守ってもら んだから、用心棒代を払うくらいだろう。い じめっ子の示談金でまかなえばいい」	
7		奥富が事務所に入ってくる。 奥富「親分」 堅太郎「なんでしょう」 奥富「脅征会の奴らが……」 堅太郎「またですか……」	
8		玄関。 広域暴力団関東脅征会小谷田組幹部豊岡誠 司と組員が何人も押しかけている。 一家の若い衆達が警戒している。 豊岡「おい、いつまで待たせるつもりだい」	
9		奥富と一緒に堅太郎と清子が玄関に出てく る。 堅太郎「待たせましたね。取り込み中でして ね」 豊岡「俺達より大事なのかよ？」	
10		豊岡「ここは訪問者に茶すら出さねえのか い」	

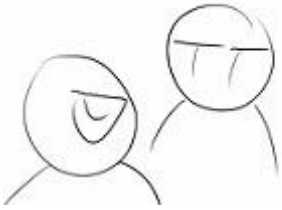
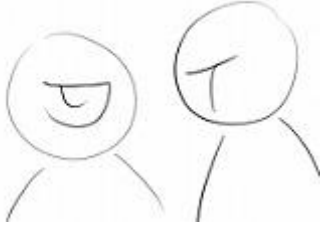


場面：脅征会脅迫

番号	画面	内容・台詞	時間
11		堅太郎「宿泊予約もなくお客様扱いされると？ 玄関で立たせるくらいで十分では？」	
12		脅征会組員「生意気だぞこの野郎！」 豊岡が手で制止する。	
13		豊岡「関東脅征会も舐められちゃったな」 堅太郎「舐めるも何も、興味がございません」 豊岡「そっちに興味はなかろうが、こっちにはあるんだ」	
14		堅太郎「ご用件は？」 豊岡「おう、ここの遊戯場のことだ」 堅太郎「営業を停止しろと」 豊岡「そうだ」 堅太郎「それはお断りしたはずですが」	
15		豊岡「断って終わる問題じゃねえんだ」 堅太郎「終わる問題にさせていただきたいですね」	





場面：脅征会脅迫

番号	画面	内容・台詞	時間
16		豊岡「おう、脅征会がこの界限で賭場を開くことは知ってんだろうが。一つの町に賭場は二ついらねえ。金品も賭けねえ遊びをやられちゃ博奕打ちの面子に関わるんだよ。こりゃ立派なショバ荒らしだ」	
17		堅太郎「この界限では、昔からこの関東入間屋一家が遊びを提供させていただいているんです。そこに土足で踏み込んで賭場を開こうなど、どちらがショバ荒らしでしょうね」	
18		豊岡「賭けねえ遊びなんてやっているような奴らが一丁前に博徒気取るなよ？ おめえらの縄張りなんて通用しねえ」	
19		堅太郎「ご先祖様が堅気衆に安心して遊んでもらえるように、違法な博奕をやめて合法化したんです。地道に築いた信頼を踏みにじるのでしたら、それは嫌がらせになりましょう」	
20		豊岡「脅征会に刃向かったら怖いことになるぞ」 堅太郎「勘違いしちゃいけません。争うつもりなどありません」 豊岡「だったら大人しく遊戯場を閉じるんだ」	






場面：脅征会脅迫

番号	画面	内容・台詞	時間
21		堅太郎「こちらはお上に営業許可取って、堂々とやらせていただいているんです。これ以上遊戯場の閉鎖を要求するのでしたら、営業妨害、脅迫で出るところ出るしかありませんが」	
22		豊岡「おう、俺ら『脅し』を『征する』で脅征会だぞ。訴えられるのが怖くてやっつけられるかい」 堅太郎「警察と裁判所はどちらに味方すると思いますか？ 暴力団のトップに死刑判決の例も出ましたよね？」	
23		豊岡「何が言いたいんだ」 堅太郎「組織の末端中の末端の組員が、何の罪もない堅気に危害を加えたなんてことがあれば、法の力によって会長を拘置所にぶち込んで絞首台に送ることもあり得るってことでは？」	
24		豊岡「ふざけやがって。末端とはいえ俺は幹部だぞ！ 会長の顔に泥を塗るなら許さん！」 豊岡と脅征会組員が懐から短刀を抜く。	
25		その時、脅征会組員が清子に写真を撮られる。 豊岡「あっ？」	

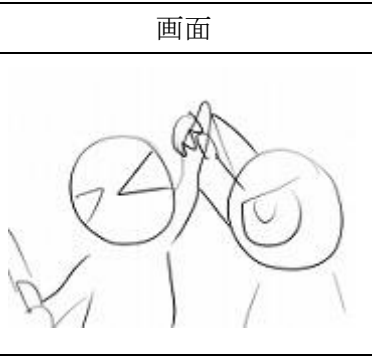




場面：脅征会脅迫

番号	画面	内容・台詞	時間
26		清子「証拠はばっちりですね」 豊岡「くそっ……」	
27		豊岡「脅征会の力を教えてやれ！」 脅征会組員達「おうっ！」 脅征会組員達が詰め寄っていく。	
28		奥富「親分、道具を！」 堅太郎「うちは暴力団じゃないんです！ 道具はだめです！」 奥富「どうしてっ？」 堅太郎「ないことになってます！」	
29		堅太郎、清子、奥富、若い衆が身構える。 脅征会組員達が迫る。	
30		お凜様「何の騒ぎじゃ！」 お凜様、牙吉、飛丸、達次郎が玄関にやってくる。	

場面：脅征会脅迫

番号	画面	内容・台詞	時間
31		お凜様が脅征会組員達を睨みつける。 お凜様「おい、チンピラ、なんじゃその短刀は？ しまわんかい！」 豊岡「子供に用はねえ！ すっこんでろ！」	
32		お凜様「ここの客分になっとるんじゃ。見過ごせんわい」 豊岡「変な格好しやがって。お嬢ちゃんよ、学校のお遊戯会じゃねえんだよ」	
33		お凜様「お遊戯会だと思ふんなら、わしの二本角を触って確かめてみよ」	
34		豊岡「頭のおかしい小娘だぜ……」	
35		豊岡がお凜様に近づき、二本角を触る。 豊岡「生えてる……」 脅征会組員達が狼狽える。	

場面：脅征会脅迫

番号	画面	内容・台詞	時間
36		お凜様が豊岡の腕を強く握る。 豊岡「あああああっ」	
37		お凜様が豊岡の腕をひねって、ひざまずかせる。 豊岡「いててててっ」 脅征会組員「兄貴！」	
38		お凜様「堅気になって真っ当に商売しとる一家に嫌がらせして遊戯場を閉じさせようなんて、博奕打ちの風上にも置けん奴らじゃのう」 腕をひねり続ける。 豊岡「いててててっ」	
39		お凜様「きさん達も博奕打ちの端くれなら、賭場の中で勝負をつけたらどうなんじゃ？」 腕をひねり続ける。 豊岡「わかった！ わかった！」	
40		お凜様が、豊岡の腕をひねりながら、堅太郎と清子の方を見る。 お凜様「それでどうじゃ？」 堅太郎「わかりました」	